

大豆の生産状況及び取組方針について

資料 2

	1. 各県における大豆の需要・課題	2. 大豆の生産状況・目標					3. 1 及び 2 を踏まえた課題解決に向けた取組や今後の推進方針	4. 令和 4・5 年度大豆において講じた技術対策(予定含む)		5. 県・全農における取組支援		6. 他県、実需者、研究機関等に対し意見交換で聞きたい・話し合いたい・要望したいこと
		県全体／主な品種	令和 4 年度	令和 5 年度	令和〇年度	生産上の課題		主な生育ステージ	講じた技術	県単独予算事業 新技術や新品種の開発・実証状況	水田裏・大豆産地生産性向上事業で生産拡大や拡大に向けた取組が進んでいる地区の概要	
新潟県	①大豆の用途 豆腐、豆腐加工品（油揚げ等）、納豆 等 ②大豆の主な取引先 （県内）こなかわ様 等 （県外）アサヒツ様（埼玉県）、 タカノフーズ様（茨城県）、 相模屋食料様（群馬県） 等 ※卸売業者を経由して販売 ③実需者から求められる品質・量のニーズ 品質：被害粒の減少 量：安定供給 ④需要にかかる課題 安定供給による産地の信頼度向上	県全体 里のほほえみ エンレイ 作付面積 (ha) 収穫量 (t) 単収 (kg/10a) 作付面積 (ha) 収穫量 (t) 単収 (kg/10a) 作付面積 (ha) 収穫量 (t) 単収 (kg/10a) ※品種ごとの作付面積・単収は推計。収穫量は検査数量。	4,200 ha 7,100 t 169 kg/10a 2,591 ha 3,883 t 170 kg/10a 1,493 ha 2,531 t 150 kg/10a		令和 6 年度 6,000ha 重点対象 270kg/10a 県全体 180kg/10a	・団地化、ブロックローテーションの推進 ・排水対策、適期収穫等の徹底 ・青立ち、しわ粒発生抑制	1 重点技術対策の徹底による収量・品質の確保 【新潟県の R5 年度大豆の重点技術対策】 ・高品質安定生産のための栽培環境の整備 ・湿害と雑草害の回避による生育量の確保 ・夏期の土壌乾燥防止による水分ストレスの軽減 ・土壌改善と地力低下防止、後期米養の確保による豊熟の向上 ・病害虫防除の徹底 ・適期収穫と汚損粒発生防止による品質向上 2 生産拡大や生産性向上に必要な機械・施設の導入支援	播種前 播種 分枝・伸長期 開花期 随時	明渠・補助暗渠等による排水対策 有機資材等の施用による地力増進 砕土率の確保、畝立て播種 中耕・培土の適期実施 水分ストレス軽減のための乾燥時の暗渠閉栓等 適期・適正な病害虫・雑草防除	1 機械・施設整備 新潟県農林水産業総合振興事業（大豆・麦・そば生産振興メニュー） 予算：127,858 千円の内数 内容：大豆・そば・麦の生産のために必要な施設・リース用機械の整備 （1）施設整備（補助） ・一般地域：3,000～50,000 千円（4/5/10 以内（うち機械 3/10 以内）） ・中山間地域：1,000～50,000 千円（5/10 以内（うち機械 1/3 以内）） （2）機械整備（リース） ・一般地域：1,000～30,000 千円（3/10 以内） ・中山間地域：1,000～30,000 千円（1/3 以内） 2 実証ほ （1）地域の課題解決につながる技術等の実証ほ（県） （2）収量・品質改善に向けた実証ほ（JA 全農にいがた）	1長岡市（事業実施主体：旧JA越後ながおか）※R3 年度実施 ・重粘土質なほ場が多いことから、収量・品質確保を目的に、排水対策（耕起同時畝立て播種や弾丸暗渠）等を実施。 ・作付面積：71.8ha→99.4ha ・団地化率：66.9%→82.4% 2長岡市（事業実施主体：堺町生産組合）※R4 年度実施 ・大豆実需者との意見交換会に参加し、実需者の求める大豆について情報収集。土壌診断に基づく酸度矯正資材の散布等を実施。 ・作付面積：25.3ha→28.8ha ・団地化面積割合：29.0%→33.3% ・単収：195kg/10a→211kg/10a	
富山県	①大豆の主な用途 豆腐、煮豆、豆乳 等 ②大豆の主な取引先 ・株式会社マルツネ ・マルサンアイ株式会社 等 ※生産量の大半は卸へ出荷。記載した取引先は、卸からの販売先や直接集荷団体から出荷した業者を記載。 ③実需者から求められる品質・量のニーズ ・豆腐等加工用途に応じた加工適性（たんぱく質やリン、イソフラボンの含有量など） ・安定した量の供給 ・異物混入の防止 ④需要にかかる課題 ・実需の求める量・品質の安定供給	主な品種 ・えんれいのそら ・シュウレイ ・オオツル 作付面積：4,510ha 生産量：5,590 t 単収：124kg/10a		作付面積：4,623ha	作付面積：4,900ha 単収：200kg/10a ※目標年度は定めていない。	・適期作業のための作業効率の向上 ・収量・品質の高位安定化のための基本技術の徹底 ・実需の要望量を供給するための生産拡大 ・青立ちの発生防止	・県米作改良対策本部からの管理情報や指導文書の発出、各農林振興センターにて地域に応じた栽培管理指導 ・生産推進に向けた生産体制のための国事業活用への推進・支援	播種前 播種期 播種後～開花期前 開花期以降 収穫期	・土壌改良資材や有機物の施用 ・排水対策の徹底 ・適正な播種（時期に応じた播種量、播種深度など）の徹底 ・適正な基肥量の施用 ・雑草の種類や発生状況に応じた雑草防除対策 ・適期培土の確実な実施 ・気象やほ場の乾き具合に応じた畦間かん水の実施 ・適切な病害虫防除の実施 ・汚損粒発生防止のための収穫前の雑草などの除去 ・適期収穫 ・コンバインの適正な作業速度の遵守 ・異物混入防止のための丁寧な選別・調整の徹底	・高生産性大豆生産運動事業 予算額 461千円 技術実証のための実証ほの設置など	●入善町農業再生協議会 ・大豆生産面積拡大に向け、作業効率の向上が必要 ・このため、ドローンやコンバインなどの高性能機械を導入し、効率的な作業が可能となった。 ・結果、作付面積は計画策定時直近（R3年度：689ha）に比べて、事業導入後（R4年度）は735haと46ha拡大 ●富山市農業再生協議会 ・適期収穫による品質向上と収量確保に向け、コンバインを導入 ・計画策定時直近（R2年度：112kg/10a）から、事業導入後（R3年度）は140kg/10aと、単収が向上	・大豆は、気象の影響（湿害、乾燥害、台風など）を受けやすく、安定した収量の確保が難しい。気象の影響に左右されにくい品種の育種状況について教えてほしい。 ・収穫時の青立ちが問題となっている県での発生防止対策について事例を教えてください。
石川県	①大豆の用途 豆腐、納豆 ②大豆の主な取引先 ゼントウ ③実需者から求められる品質・量のニーズ 収量の安定化 ④需要にかかる課題 価格の安定化	県全体 里のほほえみ エンレイ 作付面積 (ha) 検査数量 (t) 単収 (kg/10a) 作付面積 (ha) 検査数量 (t) 単収 (kg/10a) 作付面積 (ha) 検査数量 (t) 単収 (kg/10a)	1,790 ha 1,650 t 92 kg/10a 1,359.9 ha 1,177 t 86.6 kg/10a 115.5 ha 56 t 48.5 kg/10a	降雨の影響により一部で播種が遅れており、現在集計中 ※R5計画値（R4時点） 里のほほえみ 作付面積：1,340 ha エンレイ 作付面積：118 ha	令和 9 年度 1,900 ha 3,800 t 200 kg/10a	・病害虫や雑草による被害（カメムシ、葉焼病等） ・青立ちやしわ粒の発生	・排水対策の徹底 ・土壌分析に基づいた土づくり ・開花期の畝間かん水 ・病害虫防除の徹底	播種前 開花期 成熟期	・土づくり（堆肥施用、前作緑肥作付） ・排水対策の徹底 ・畝立て同時播種機の利用 ・殺虫剤の播種時処理 ・中耕培土（開花期まで） ・適期収穫	無	珠洲市若山地区 ・大豆生産のため単収向上が課題 ・排水性向上のためサブリゾラなどを新たに導入 ・結果、ほ場の排水性が改善され、作付け面積が5ha (R3) から6ha (R4) に拡大 中能登町曾柿 ・大豆生産のため単収向上が課題 ・適期防除のためマルチローターなどを新たに導入 ・結果、防除が適期に実施され、作付け面積が20ha (R3) から23ha (R4) に拡大	
福井県	①大豆の用途（豆腐、納豆、・・・など） ・「里のほほえみ」はタンパク含有量が高く、豆腐・豆乳業界での使用が高い ②大豆の主な取引先 ・全国農協食品（株）等 ③実需者から求められる品質・量のニーズ ・安定した生産体制の構築の上で、「品質の均一化」及び「安定供給」 ④需要にかかる課題 ・国産比率を今後高める為に、大豆ミート等新たな用途での需要が見込まれる事から、高品質な大豆の栽培を推進し安定供給及び消費拡大に努める事	県全体 （農水省統計値） 里のほほえみ （県調べ※） エンレイ他 （県調べ※） ※検査実績からの計算値 作付面積 (ha) 収穫量 (t) 単収 (kg/10a) 作付面積 (ha) 収穫量 (t) 単収 (kg/10a) 作付面積 (ha) 収穫量 (t) 単収 (kg/10a)	1,870ha 2,320t 124kg/10a 1,734ha 1,994t 115kg/10a 136ha 120t 88kg/10a	集計中 （令和 4 年度と同等の見込み）	令和 5 年度 1,900ha 4,180t 220kg/10a （令和 5 年度 大豆振興方針④ 水田農業レベルアップ委員会）	・単収向上	・収量向上のための基本技術の徹底の総点検（栽培日誌の確認等）	播種前 播種時 本葉展開期 開花期～ 子実肥大期 全般（雑草・病害虫対策）	排水効果の高い排水対策の実施 土づくり資材の施用 品種の特性に応じた播種 中耕培土の適期実施、除草剤の適期散布による除草の徹底 夏季少雨期における畝間かん水の実施 燐化アサガオ対応マニュアルに則った畦畔管理の対応を徹底 葉焼病の防除・黒根腐病への対応	・県農業試験場にて、奨励品種決定試験を実施中（特に、収量、熟期を重視）	坂井市福島地区（T農園） ・大豆生産の効率化に向け、無人防除ヘリを導入し、規模拡大に取組む。 ・結果、栽培管理の省力化することにより、作付面積の拡大につながった。作付面積：9.2ha (R2)→16.6ha (R3) 坂井市定旨・五本・河和田地区（S転作組合） ・高効率機械の導入による規模拡大に向け、溝鋤機、播種機、コンバイン、乾燥調製機器を導入 ・結果、効率的で生産性の高い体制が整備され、大豆の生産面積拡大につながった。大豆：R3：3,816a→R4：3,904a	（一全農） 大豆は単収向上が課題と認識しているが、単収低下の要因が絞り込めていない現状。まずは、基本技術の徹底がなされているかを総点検しようと考えているところ。他県で、単収向上のために、特に力を入れて実施していること、実施しようとしていることをお聞きしたい。